

すでに地域内で日頃さまざまな活動をしている既存の組織を上手に利用しグループを結成しよう。

作成グループは、特別な組織を法律等に基づき結成する必要がある訳ではありません。すでに地域内で日頃さまざまな活動をしている集団を利用して、グループを結成しましょう。

【既存組織とは】

例えば

・自主防災組織 ・消防団 ・町内会 ・PTA など

すでに、自主防災組織がある場合は、組織の更なる向上をめざし、是非取り組んでいただきたいと思います。

自主防災組織がない場合でも、町内会単位で行えば、すでに組織ができあがっているため、新しく組織を発足させるのに比べて、グループづくりにかかる時間が短く、長期にわたる活動計画も立てやすいという長所があります。

町内会の場合は、そのほとんどが町内会青年部や地区の婦人会など様々な組織が母体になると予想されます。

そうすれば、より多くの参加者を募ることも可能です。

グループづくりにあたっては、地元の消防団や行政機関（市町村）、消防署などの関係機関と密に連絡を取り合うことはもちろんですが、地域内の学校、商店会、老人会などにも協力を呼びかけるようにするとよいでしょう。

既存の組織を上手に利用しグループを作成しましょう。

【例：作成グループメンバー】 町内会単位で作成グループを結成

町内会員（マップ推進担当）・・・・・・・・・・・・・5名～10名程度

【マップづくりの中心となって活動する人たち】



町内一般の方・・・・・・・・・・・・・出来る限り大勢の参加が望ましい

【マップづくりの中で、途中からの参加も歓迎し、地域を見て回ったり、情報提供をしてもらったりと、少しでも多くの方に参加してもらいます。】

（小中学生にも参加して頂ければ、子どもの視点も盛り込めます）



【一緒に参加してもらえれば有効な方】

- ・消防関係者（消防団員や消防署員）
- ・福祉関係者（民生委員や地域内の福祉施設職員）
- ・行政関係者（避難所管理者や役場職員） など

幅広い立場の人たちから地域の防災に関する情報を集める

各モデル地区の方々は、次のようなグループでマップづくりに
とりくまれたようです。

「防災マップ」の作成を進めた地域の方々を対象に、今回の取
組みについてアンケートを実施しました。

作成するグループ

岡山市操明学区連合自主防災会

岡山市操明学区では28単位町内会からなる13単位自主防災
会が2002年度に学区連合自主防災会を結成していた。

連合自主防災会の役員が中心となり、取り組みを進めたが、防災マップは小学
校単位の広域で作成したので、効果があったようです。

建部町川口自主防災会

防災会役員が中心となり、各地区へ持ち帰って情報を収集。

両地区とも、防災会役員が中心となり、各地区へ持ち帰って情報の収集作業を
進められたようです。また、各地区自主防災会で住民に説明するという2段階
の取り組みを進められたようです。

真庭市開田自治会

「町内会役員、役員ではない住民も含めて」作成。
役員ではない住民も概ね協力的で呼びかけに答えて参加。
しかし、実際に誰が作業するかという問題も。

本地区では、「役員が中心に」行われたようですが、全般の反応として概ね協
力的であったようです。（地元消防団など）

しかし、実際誰が作業を進めるかなどの問題もあったようですが、参加した皆
さんの協力により作業を進められたようです。